

戦略会議・会議録概要

I、日 時 令和元年10月10日(木) 午前11時～11時40分

II、場 所 行政会議室

III、出席者 戦略会議構成員(市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者、理事、戦略企画部長、政策推進部長、総務部長、街づくり部長、福祉・子ども部長、学校教育部長)

※同席者 子ども室課長、戦略企画室主査

IV、概 要 北条幼稚園及び北条保育所の在り方について

V、内 容 北条幼稚園及び北条保育所の在り方の方向性について

(1) 主な意見

【副市長】

- 本日は「北条幼稚園及び北条保育所の在り方」について、審議を行う。まず、市長よりご挨拶いただく。

【市長】

- 戦略会議は市の方向性を決定するものであるが、市の方針は、皆の議論と咀嚼した理解をもって構築され、決定に至るべきと考えている。その理解のもとでの、戦略会議への参画をお願いしたい。

【副市長】

- 本日は、「北条幼稚園及び北条保育所の在り方」について審議を行う。
- 公立施設の在り方については、平成25年度に幼保一体化の検討を行い、民間園の認定こども園移行状況を見極めながら、適切な時期に改めて検討を進めることを結論づけた。
- この間、民間幼稚園の認定こども園化が進む中で、公立幼稚園の利用減少は著しく、魅力ある公立幼児教育の打ち出しによる利用拡大に取り組んでいるものの、特に北条幼稚園においては、子ども達の集団生活に支障をきたしかねない状況となりつつある。
- 北条幼稚園や保育所は、北条まちづくりプロジェクトにおける住宅地域再生のための公的資源の一つであり、また、北条幼稚園、北条保育所の在り方は、今後の

プロジェクトの進展に大いに影響を及ぼす要素である。

- 本日は、北条幼稚園及び北条保育所の今後の方向性について審議を行いたい。
- 配布資料に沿って、子ども室課長より説明を願う。

【子ども室課長】

《配布資料に沿って説明》

【副市長】

- 今、説明があった北条幼稚園及び北条保育所の在り方について、質問や意見はないか。

【戦略企画部長】

- まず1点目は、人口の考え方についてである。今大東市は、人口を流入させるという大目標がある中で、ややもすれば認定こども園化は、人口減少に対応した事業であるという捉え方がなされるという点が気になるところである。認定こども園については、人口流入施策のニーズとして大東市が打ち出す具体的な対応策であるという画の描き方が必要ではないかと考える。
- もう1点は、これまで民間が先行して認定こども園に移行しているが、この動きは、各関係団体との調整や合意が背景にあって動いてこられたものであると考える。公立だからと言って、こういった私立の動きを無視して動くべきではなく、私立の方々との合意や意見等を拝聴しながら考えていくべきではないか。

【福祉・子ども部長】

- 1点目については、公立の在り方が、将来に向けた長期にわたる人口流入施策の一環であるという考え方をベースにしていることについて、しっかりと示していきたい。
- 2点目については、認定こども園化を考えるにあたって、ご意見はひとつお伺いしており、その中で特に大きな意見はなかったという経過がある。しかし、具体的に中身を示したわけではないため、そのあたりについては確認をとる必要があると考えている。

【副市長】

- 具体的な内容については、まだ各関係団体には示せていないという認識か。確認すべき団体はどのくらいあるのか。

【福祉・子ども部長】

- 具体的な内容について、十分にはお示しできていないという状況。確認すべき団体はいくつかあるが、今月、子育て会議を開催する予定であるため、その中で各関係団体にご説明し、ご意見をいただきたいと考えている。

【学校教育部長】

- 幼稚園に関しては、園児数が減っている背景はあるが、それを理由にするのではなく、資料に記載されている統合のメリット、特に上段2つを強く主張すべきだと考える。
- また、北条幼稚園を廃止する権限は教育委員会にあるため、これについて、いずれかのタイミングで議決をとる必要がある。すでに教育委員については、先月、検討内容の報告は行っており、概ねご了解いただいているものと考えているが、これまで公立幼稚園の当面の維持を想定していたため、方向性が変わるという印象を持っておられた。

【理事】

- まず1点目は、市民の方からの認定こども園化に対するお声や要望として、市に届いているものがあるかどうかを確認したい。
- 2点目として、統合した場合、現在の利用人数であれば施設面積や園庭面積条件をクリアすると記載されているが、市の施策として、東部エリアの人口増を目指していることから、どのくらいまで対応可能なのかについて、教えていただきたい。特に移行に伴って、1号認定の利用年齢を3歳まで拡大することから、それに伴ってニーズが増えることも考えられるため、利用人数の増加に対する対応も必要と考える。
- 最後に、認定こども園化した場合の職員の数について、現行の保育所と幼稚園で働いている職員の人数がそのまま移行されるのか、もしくは増減があるのか伺いたい。

【福祉・子ども部長】

- まず1点目について、認定こども園化についてのアンケート等、直接ご意見を伺う機会はないが、今、民間幼稚園がほとんど認定こども園に移行している状況の中で、一定、認定こども園に対する認知は進み、不安もないものと考えている。
- 2点目については、面積要件をもとに算出している。現在定員を90人としているが、もともと200人の面積規格があるため、最大200人までは現施設でも対応可能。ただし、幼稚園が合わさることにより必要な部分もあることから、その分を若干割り引いたぐらいの人数になると考える。
- 3点目については、基本的には幼稚園機能をそのままのせるため、職員については当面現状のままになろうかと考えているが、重複する部分については変わる可能性があり、今後考えていくべき要素と考えている。

【街づくり部長】

- 保育所の定員は、ほぼいっぱい状況だが、施設の位置関係を見ると民間施設がかなりある。統合を考える前の段階で、民間に任せるといった考えはなかったのか、また検討されていれば、どのように判断されたのか。

【福祉・子ども部長】

- 公立としての保育所のニーズを考えた場合、今は支援を必要としている方がかなり増えている状況である。今の公立の担いとしては、安さではなく、そういった子ども達のフォローを行政としてしっかりと担っていくということがあるため、基本的に公立の受け皿は必要と考える。ただし、その規模をどこまでとするかや子どもたちをどのように育てていくかについては、今後公立で進めていく中での課題であると考えている。

【総務部長】

- 北条幼稚園の園児が減少する中での、幼稚園の在り方については、これまでも課題となっていたところ。今年10月に入って、無償化が始まり、私立と公立の差がなくなったことも受けて、認定こども園という汎用性の高い施設に移行することは十分理解できる。
- ただし、北条幼稚園を認定こども園化することで、将来諸福幼稚園をどうするのかという問題も当然出てくると考えるため、このあたりの整合性については、教育

委員会と十分に連携を図るべきであるし、教育委員会としての意見やビジョンも持っていただく必要があると考える。

【戦略企画室長】

- 令和2年の入園者については、おそらくもともと入園を予定されていた方々が申し込みされてきたものと推測されるが、令和3年以降に公立幼稚園に入園しようとしていた方々は、無償化により、もしかすれば前倒しで3年保育のある民間に流れている可能性があるのではないかと考える。その場合、今、令和4年のスタートを想定されているが、令和3年の入園者がもっと減る可能性があると考えられる。令和3年からスタートするというスケジュール構成は難しいものか。
- また、諸福幼稚園について、諸福地域自体は、子どもの数が増えている状況であるが、4・5歳という2年保育は、なかなかニーズが少ないと思われるので、今日の議題からはずれるかもしれないが、諸福についても3歳児を対象とするような動きをとっていくべきではないかと考える。

【福祉・子ども部長】

- スケジュール的には令和3年度スタートも考えられるが、2年保育であることから、令和2年に入られた方が令和3年に卒園されてから移行する方が紛れなく移行できると考える。また、北条まちづくりプロジェクトの進行状況への影響など、さまざまな問題や課題について考える調整期間が一定必要であることから、この令和4年4月が一番適当な時期と考えている。
- また、公立の3歳児については、以前から議論に出ており、民間にも相談させていただいた経緯がある。その中で、3歳児からという結果に至らなかったということであるが、一方で認定こども園では3歳児からを予定しており、整合性の問題もあるため、このあたりについては、関係者と相談の上、進めたいと考える。

【市長】

- 政策決定には、「市の方針について戦略会議で決定したので、各関係者や市民の皆さんに説明をする」という流れと、「市の方針を決定するにあたって、周りの意見や意向を整理した上で決定する」という流れの2つがあると考え。どちらがこの戦略会議での市の方針決定にふさわしいかということを考えると、どちらの要素も必要と考える。市の方針が未定のままで各関係団体に当たるのも難しく、逆に、

市の方針を決定したという結論を持って関係団体を回るということも、市民に不信感を抱かせる可能性がある。今回の議案に関わらず、戦略会議の位置づけというものは、この双方向からのちょうど良いころあいのところを図っていき、出席各位の了承を得るべきと考える。

- 今回の議題においては、北条プロジェクトの商業棟に入られる企業が、子育てや女性を対象とした企業であることや、市の職員を鑑みても子育て世代の方が多いことから、保育施設のニーズは少なからず増大すると考える。
- II期のプロジェクトの進展を考えると、そのプロジェクト内外でさまざまな子育て世代の誘致を図っていく中で、戦略会議においては、瞬間的なものを判断して決定するだけでなく、将来の見通しや見込み、可能性も議論した上で、決定されるべきではないかと考える。
- その上で、今回の議題については、採決・決定に至るには、まだ少し議論の余地があるのではないかと考える。各位の意見が、納得・一致し、まとまるまでには、もう少し角度を広げた議論と周知が必要であり、それらを行った上で、再度皆さんの意見を諮るというように、もうひと手続きいるのではないかと考える。
- 戦略会議の位置づけとして、決定したものを簡単に修正するようなことになれば、今後の戦略会議の位置づけも難しくなる。そのため、今少し皆さんに考察の材料を提供いただくような手順がいるのではないかと感じた。

【教育長】

- 保育所の対象となる子どもで、支援を要する幼児は、発達支援センターに通っているのか。

【福祉・子ども部長】

- 発達支援センターに通われている子どもは、毎日通うわけではないため、両方通う並行通園という形と保育所の中で加配の先生をつけて対応する形がある。状況に応じて対応は可能。

【教育長】

- 幼稚園については、加配を行いながら進められているところ。これは公立のセーフティネットの一つであり、民間では受け入れていただき難い部分でもあるため、認定こども園化後も公立に引き続き課せられた課題であると認識している。

- 北条幼稚園については、改修時に国庫補助を受けており、認定こども園への移行によって返還義務が生じるが、例えば小学校統合時のように、別施設にすることで返還しなくてもよくなるような、何らかの返還せずともよい活用方法や施設の在り方が見出せたらと考える。
- 先ほど、子育て会議で認定こども園化について示すという話があったが、いきなり会議で提示して良いレベルなのか、前もって団体に示すべきなのかは、担当部署においてしっかり判断していただきたい。

【福祉・子ども部長】

- 子育て会議は、関係団体全体で意見交換できる一つの場として考えているものであり、そこに至るまでに特に密接に関係のあるところについては、すでに一定の話はしている。さらに具体的なものを示すことによって、どのような意見が出るか、今後集約していきたい。
- また、このあと資産をどう活用していくかということについては、改めて考えていく必要があると考えている。

【副市長】

- それぞれに意見を出していただいたが、議論の中にあつたように、まずは利用者や各種団体等の意見を聞くべきだと考える。その上で、最終的な決定は後日の戦略会議で行うこととし、今回については、一定の方向性の決定にとどめたいと考えるがどうか。

《一同了承》

【副市長】

- それでは、本日の議論全体について、再度確認する。
- 今後の方向性は、まず1点目として、北条幼稚園を廃園とし、北条保育所を幼保連携型認定こども園として整備する。2点目として、統合の時期は、令和4年4月を目標とする。3点目として、統合に伴い、1号認定の利用年齢を3歳児以上に拡大する。本日の審議は、以上3点を基本方針とすることにとどめ、今後関係団体等との調整を図ったのち、後日の戦略会議において最終的な意思決定を行いたいと考えるが、良いか。

《一同了承》

【副市長】

- それでは、本日の戦略会議を、これで閉会とする。

(以上)